

花と緑の銀行だより

204号 2017.7



植樹祭式典会場(写真提供：富山県)

目次

- ・花と緑の提言 氷見市の花とみどりのまちづくりについて（氷見支店） 2
- ・技術講座 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン 27ホソバナデシコ（職藝学院 渡邊美保子） ... 3
- ・活動事例 第68回全国植樹祭における花と緑の銀行の取り組み（緑花推進部） 4
- ・緑づくりコーナー 庭木に利用する樹種の特徴と管理 ～ムクゲ～（樹木医 西村正史） 6
- ・この人あり 子供に心の花を咲かせたい（南砺支店 井波地方銀行 頭取 鴨野力三） 7
- ・報告コーナー・お知らせコーナー 7月～9月の主なイベントなど 7

氷見市の花とみどりのまちづくりについて

氷見市海浜植物園・花みどり推進室

室長 鈴木 瑞 磨

氷見市では、平成14年から10年間実施された第7次氷見市総合計画の中で、「四季を彩る花とみどりの庭園都市づくり」を政策として掲げ、長期的な視点で取り組むまちづくりの一つとして「花とみどりのまちづくり」に取り組んでまいりました。

さらに、第8次氷見市総合計画では「自然と調和した生活空間の創造」を政策として掲げ、「豊かな自然環境の保全と美しい景観づくり」「花いっぱいのまちづくりの推進」を目指し、自然環境の保全につとめるとともに、地域を花と緑でいっぱいに彩るなど、便利で快適な質の高い生活ができるまちづくりに取り組んでいるところです。

氷見市の緑花推進事業としては、①地域や保育園、小学校等の公共施設への花苗・園芸資材の配布などを行う花いっぱい運動、②花壇コンクール開催事業、③市内商店街へのハンギングバスケットの設置や園芸指導などの事業を行っています。

また、「花と緑の銀行氷見支店」の活動としては、地域の「頭取会議」や県・市の花壇コンクール優秀花壇の視察、講演会等を開催し、花壇の土づくりや管理方法などを学ぶ「頭取・グリーンキーパー合同研修会」等を実施しています。昨年は身近なものを活かし、自然と調和した持続可能な生活のベースをつくることを目指したパーマカルチャーによる花壇・庭づくりの研修を実施し、スパイラルガーデンづくりなど、新たな取り組みにも挑戦しています。



写真1 スパイラルガーデンづくり

「一般社団法人氷見市花と緑のまちづくり協会」については、氷見市からの受託業務として氷見市海浜植物園の指定管理業務や花と緑の日曜学校の開催を行い、協会の自主事業として、①押し花絵やフラワーアレンジメント等の教室講座、②園芸・緑の相談業務、③漂着物アートや写生画コンクール等の展示会、また、④植物に因んだ「ハーブ展」

や「コーヒーとチョコレート展」、「ポインセチアとシクラメン展」などの企画展をはじめ、⑤夏休みにはカブトムシやクワガタムシの展示を通し、親子で自然に親しみ、生命の大切さを学ぶ機会として開催する特別展「親子ふれあいまつり」を開催しています。さらに、菊花大会や椿展、ひょうたん展、雪割草展など、緑花各団体への支援や連携事業も毎年開催しています。

また、毎年、海浜植物園を会場に開催している「ひみ花とみどりのフェスタ」は、年毎にテーマを掲げて、市内の緑花関係者で構成される実行委員会により開催されているもので、寄せ植え体験や木工体験、木のものづくり体験など、本市の花と緑に関するイベントの中で最大のイベントであり、緑花関係者をはじめ、多くの市民の皆さんに幅広く花と緑の魅力を伝える機会となっています。



写真2 ひみ花とみどりのフェスタ

このように氷見市では、市と「花と緑の銀行氷見支店」、「一般社団法人氷見市花と緑のまちづくり協会」が連携を図りながら、市域全体の各地域で花と緑のまちづくり推進のために緑花事業を展開しており、その結果、地域や学校、保育園などでさまざまな活動が行われるようになってまいりました。

しかし、近年の傾向としては、これまで活発に活動してこられた頭取・グリーンキーパーの高齢化と後継者不足が切実な課題となっており、それぞれの自治会と連携して頭取等の選出にも関与していただくこととなっています。

今後は、関係団体や各地域と緊密な連携のもと、若い世代へ花と緑の魅力を伝え、幅広く興味を持って関わっていただくことが急務であり、多分野との連携も図りながら、花と緑のまちづくりの推進に取り組んでいきたいと考えております。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

27 ホソバナデシコ

職藝学院

教授 渡 邊 美保子

ホソバナデシコは、学名がダイアンサス・カルスシアノルムというヨーロッパ原産の宿根草です。日当たりの良い乾いた場所を好みます。その場所が気に入れば寿命の長い宿根草です。種から育てると花の大きさや草丈にばらつきがありますが、咲いた時の草丈は60～80cm位です。6月中旬に茎の先に赤紫を帯びた濃いピンク色の小花を咲かせます（写真1）。



写真1 ホソバナデシコの花 6月中旬

ホソバナデシコは、5月になると地面から先のとがった細い葉をたくさん伸ばして、ハリネズミのような姿になります。しばらくすると、こんもりした葉の中から、真っ直ぐな細い茎を放射状に何本も出し始めます。二枚の細い葉は、茎を包みこむように向かい合っていますが、あまり目立ちません。5月下旬になると、茎のてっぺんにだけ赤紫色の蕾をいくつも付けます。天に向かって両手を広げているような2枚の細長い葉の付け根に、先のとがった蕾たちがギュッと詰め込まれています。蕾たちは一日ごとに、もりもりとふくらんでゆき、その姿はまるで剣岳ようになります。

6月初旬になると、一番早くふくらんだ蕾が開きます。直径2cm位の花は、5枚の花弁をもち、花弁の先にはぎざぎざした切れ込みがあります。雄しべの先の花粉は水色の粉をまぶしたようになりますが、数日後には花粉が消えて雄しべはパタンと倒れるように花弁に寝そべります。花が一つ

開くと、それを合図に隣の蕾もふくらんで花を咲かせてゆきます。そのため、細い茎の先は小花で混みあってきて頭でっちな姿になります。すると、最初に咲いた花は、次のつぼみに席を譲るようにしぼんでゆきます。小花は、いっせいに咲くわけではありません。およそ1ヶ月かけて一つ、二つと小出しに咲いてゆきます。細い茎の先に四つも花が咲いていたなら、四葉のクローバーを見つけたぐらいの気持ちになります。毎日ながめていても、なかなか出会えないからです。

ホソバナデシコの茎は白い粉が吹いているように青みがかったので、濃いピンクの花がとても引き立ちます。花茎がたくさん地面から立ちあがってくるようになるまでには、種から育てて3年位かかる宿根草ですが、株分けの必要はほとんどありません。茎の先に小花が咲き続けるので、まるで濃い桃色の油絵の具を付けた筆の先で、点々と描いたように咲きます。空中にふわふわ浮いているように見えますので、ホソバナデシコの花を浮かび上がらせる背景として、銀灰色の葉を茂らせるルーを隣に植えると良いでしょう（写真2）。



写真2 ホソバナデシコ（手前）、後ろはレモン色の花の咲くルー 6月中旬

第68回全国植樹祭における花と緑の銀行の取り組み

花と緑の銀行 緑花推進部

全国植樹祭は、天皇皇后両陛下がご臨席になる国土緑化運動の中心的行事で、昭和25年から毎年、全国持ち回りで開催されており、本県では、昭和44年以来、実に48年ぶりの開催でした。

花と緑の銀行としては、他県にない当行の姿をアピールする良い機会と捉え、飾花事業を中心に、様々な協力を行いました。



写真1 会場へご到着の両陛下（提供：富山県）

1 全国植樹祭会場での取り組み

(1) 飾花事業総体の取りまとめ、調整、監督

花と緑の銀行は実行委員会からの委託を受け、式典会場、各植樹会場及び周辺等を花で飾るプランターの設置のほか、お野立所やお手植え・お手播き所など、飾花に関わる事業総体を把握し、各飾花の取りまとめ、調整・監督を行いました。



写真2 お野立所内・お手播き所廻りの飾花（提供：富山県）



写真3 ステージ前の富山湾をイメージしたアゲラタム飾花（提供：富山県）

(2) 飾花プランター製作への参画

飾花プランターは、雰囲気を引き立てると共に、動線規制などの機能を持ち、会場においては、なくてはならないものです。

花と緑の銀行は、計画から設置・管理までを統括しただけでなく、当行独自の組織を活用して製作にも参画しました。支店はもちろん、頭取・グリーンキーパーや地域の方々のご協力をいただき、苗を植込み、管理をお願いしました。



写真4 各地で実施された植込みの様子
（上：魚津支店、下：水見支店）

製作したプランターには、名札を取り付け、コメントも記入いただきました。まさに県民参加によるおもてなしの飾花プランターを製作できたと考えています。



写真5 取り付けた名札



写真6 式典会場の設置状況（提供：富山県）



写真7 植樹祭会場の設置状況（左：黒部市、右：上市町）

飾花プランターや県産材の OUTER、式典会場中心のペゴニアやアゲラタムのポット苗は、式典終了後も有効に活用するため当行組織を活用して県内各地に配布しました。



図1 飾花プランターの事業全体の流れ

(3) 植樹用の苗木の育成

花と緑の銀行は、指定管理施設である中央植物園の技術力を活用して、植樹用苗木の育成も受託しました。一般植樹される苗木だけでなく、天皇皇后両陛下がお手植え・お手播きされる樹種の育成等についても実施しました。

表1 中央植物園が育成した苗木一覧

区 分	樹種数	うち中央植物園が育成した品種
天皇陛下 お手植え	3種	コシノヒガン
天皇陛下 お手播き	3種	コシノフユザクラ
皇后陛下 お手植え	2種	エドヒガン
皇后陛下 お手播き	2種	ヤマザクラ
一般植樹用苗木	9種	サクラ4品種、ヤマブキ等

(4) 展示ブースへの出展

出展者のなかでは最大となるテント2張分のスペースを確保して、他県にない全県組織である花と緑の銀行のアピールを行いました。



写真8 「花と緑の銀行」出店の様子

2 玄関口での花のおもてなし

本県の玄関口となる新幹線駅や空港において、全国植樹祭へ参加するため来県された方々を、花でおもてなしをする事業も当行が受託して実施しました。

開催の1ヶ月前からは、歓迎ボードも設置し、機運醸成を図りました。



写真9 各駅のおもてなし（左上：黒部宇奈月温泉駅、右上：富山きときと空港、左下：富山駅、右下：新高岡駅）

結びに、今回、当行が実施した様々な事業に関しては、頭取・グリーンキーパーをはじめ、たくさんの方々にご多大なご協力をいただきました。この誌面をお借りして、厚く感謝申し上げます。

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ ムクゲ ～

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

公園等では、初夏から秋にかけてハイビスカスによく似た花をたくさん咲かせている花木を見かけます。これは夏の代表的な花木で、韓国の国花でもあるムクゲです。今回はこの花木を紹介します。

1 特徴

アオイ科フヨウ属の落葉広葉樹の低木で、高さは3～4mです(写真1)。インド・中国原産で、乾燥にも強く、荒れ地にも耐えるので、庭木のほか、公園や道路の側帯などにも植栽されています。種子もよく稔り、自然に若木が発生します。

花は、5つの花弁とその中心に大きな雌しべとこれに付着した多数の雄しべで構成されており、花の色は淡い紫色のものが多いのですが、白花や八重咲きの花もあります(写真2-4)。

花は朝開き、夕方にはしぼんで、また翌朝開き、一重のもので2～3日、八重の長く咲くもので2週間くらい、一輪の花を楽しむことができます。

2 管理

今年伸びた新しい枝の頂芽に5～6月頃に花芽ができ、7～10月にかけて花が咲きます。そのため、剪定は花が咲いた後の秋から翌年の春にかけて実施すればよいことになります。春に芽が伸び始めてからでも剪定は可能ですが、その場合は4月下旬までに終わらせるようにしてください。

ムクゲは、芽吹く力が強いので刈り込んで形を整えることも可能で、どこで枝を切っても問題はありません。しかし、樹形や全体のバランスを考えながら枝を切ることが大切です。放任でもある程度はまとまった樹形になります。広い庭で、大きさを気にしないのであれば、ほとんど剪定をしないという選択肢もあります。

病害虫には強い花木ですが、アブラムシやハマキムシ類が発生する場合がありますので、その際は浸透性殺虫剤で対応してください。

(写真1-4は、すべて富山県中央植物園で撮影)



写真1 ムクゲの全景



写真3 白いムクゲ



写真2 淡い紫色のムクゲ



写真4 八重咲きのムクゲ



子供に心の花を咲かせたい

花と緑の銀行南砺支店

井波地方銀行 頭取 鴨野力三

私は、井波地方銀行の頭取として活動し、36名のグリーンキーパーのみなさんと協力して花壇の管理を行っています。私がメンバーとして活動を始めたのは平成14年で、もう15年以上が経ちました。

毎年、地元の八乙女山にちなんで「八乙女花壇」と名付けた花壇を仲間の皆さんと管理をしています。

この花壇の近くには井波小学校があり、児童達が通学のためここを通ります。以前、花壇に対して「100文字応援花」として感想文を書いてもらったことがあります。花への素直な感想もうれしかったですが、「花壇の花の美しさは優しい人の心が作ったおかげ」等、花壇を育て管理している私達の思いを素直に書き表しており、児童達にとっても勇気づけられました。



写真1 八乙女花壇と仲間たち

また、国道沿いの旧井波町への入り口にある大きな岩屋交差点内のプランターに花を飾ったり、保育園児と一緒に花の植込みも実施しています。

これからも、グリーンキーパーのみなさんと協力して活動を頑張りたいと思っています。



写真2
岩屋交差点のプランター、保育園児との交流

仲間の皆と地道に取り組んできたおかげで、平成28年度のコンテナガーデンコンテスト（主催：花と緑の銀行）において、大賞を受賞することができました。そして、6月3日、4日に実施された南砺市のミニ花壇コンテストにおいても市長賞を受賞しました。

考えてみますと努力は当然ですが、せっかく参加する訳ですから、創意と工夫を皆で持ち寄ることがメンバーの花に対する士気を高める上で大切なことかと思えます。



写真3 南砺市ミニ花壇コンテスト (H29)

私は、花と緑の銀行の活動以外に、当地にある閑乗寺公園内の一画を借りて「閑乗寺の会」と称してメンバー8名で「炭焼き」を実施しています。地区のイベントを対象に、炭で作ったクラフト作品の展示販売を行っています。

今回行われた「全国植樹祭」にも当地紹介ブースで出展させてもらいました。前年のプレ大会には、水と緑の議長賞を、石井富山県知事より表彰されました。これも同様に15年間の努力が報われた様に思いうれしく会員と共に喜んでいます。



写真4 植樹祭プレ大会 in魚津 (H28)

報告コーナー

フラワーグリーンバス研修実施

- ・ 6月3日(土)に、福井県内へのバス研修を行い、頭取・グリーンキーパーら84名の方が参加されました。
- ・ 視察先は、①総合グリーンセンター（坂井市）での「みどりと花の県民運動大会」、②福井市内での「第23回全国花のまちづくり福井大会」でした。
- ・ 両地では、国体開催(H30)と北陸新幹線の開通(H34年敦賀駅開業)を契機に、県下全域を花いっぱいにしようとの熱い思いを担当者から説明を受けました。



第32回頼成の森 花しょうぶ祭り

- ・ 6月9日(金)～18日(日)の10日間、県民公園「頼成の森」で花しょうぶ祭りが開催されました。
- ・ 600品種、70万株のハナショウブをはじめ、アジサイ、カキツバタ、スイレン等が咲き乱れる中、約6万2千人の方に訪れていただきました。この後も森林浴など、多くの県民の皆さまのご来訪をお待ちしております。



 お知らせコーナー（7月～9月の主なイベントです）

 富山県中央植物園

- 森のクラフト 7月21日(金)～8月30日(水)
 - ・小学生と幼児、その親子が対象です。
 - ・どんぐりやまつぼっくりなどの工作コーナーで森と親しんで下さい。
- オオオニバスに乗ってみよう 8月18日(金)～8月20日(日)
 - ・受付時間 9：30～11：00、13：30～15：00
 - ・小学生と幼児が対象です。
- 友の会植物画部会「ボタニカル・アート展」 9月1日(金)～9月20日(水)
- 「私の植物画展」 9月1日(金)～9月20日(水)
 - ・一般から応募された植物画作品を展示します。
- 巡回展「日本の生物多様性とその保全」 9月23日(土・祝)～10月18日(水)
(詳細はHPをご覧ください。お問い合わせは富山県中央植物園へお願いします。)



 県民公園 頼成の森

- 野鳥と昆虫の観察会 7月23日(日) 9：30～12：00
 - ・森や池の生物、昆虫、野鳥の観察
- カブトムシウォッチング 7月30日(日)、8月11日(金・祝) 10：00～11：30
 - ・コナラ等の樹液に群がるカブトムシの観察(定員に達しました)
- 木工手作り教室 8月6日(日) 9：30～12：00
 - ・木で楽器を作り、ミニ音楽会
- 竹の器づくり教室 8月27日(日) 9：30～12：00
 - ・竹で、小鉢や花瓶などの器づくり
- ドングリ工作教室 9月24日(日) 9：30～12：00
 - ・ドングリや松かさ等で、木の実のオブジェづくり
(詳細はHPをご覧ください。申し込み・お問い合わせは県民公園 頼成の森へお願いします。)



頼成の森 花しょうぶ祭り H29.6.18



編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-2425
FAX 076-465-5923
<http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-4187
FAX 076-465-5923
<http://www.bgtym.org/>

花と緑の銀行だより 204号

発行日 平成29年7月
再生紙を使用しています。

県民公園頼成の森
〒939-1431 砺波市頼成156
TEL 0763-37-1540
FAX 0763-37-1450
<http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>